

## 学力向上に向けて 第2回学力向上担当者等研修会を終えて

本研修会では優秀教職員の三瓶克教諭(南郷小)、菅野総一教諭(明和小)より、視察した秋田県の教育事情について伝達をいただきました。また、学びのスタンダード推進教師の万崎公彦教諭(下郷中)、湯田克也教諭(檜原小)、算数・数学科コアティーチャーの木戸裕治教諭(朝日小)、遠藤学教諭(只見中)より、自校での実践の成果を発表をしていただきました。

どの先生も資料を丁寧にまとめ、わかりやすく発表してくださり、当日参加された先生方からも大変ためになったとの評価をいただきました。

ここでは話し合われた、2つテーマに関する意見を基に、今後の実践の参考にしてほしい点を紹介します。

### 年度末の学習内容の定着をどう図るか？

把握→計画→適用→確認→把握のサイクルを何周も回すことがポイント



#### <把握> 1年間の学習を振り返る時間の確保

- 全国学調、NRTや他の検査等による弱点・陥没点の洗い出し(学級・個人)
- 単元テスト・定期テストの振り返りの時間の設定

#### <計画> 春休みの学習計画を立てる時間を確保

- 学習時間は絶対に実行できる時間を設定できるよう個別に対応する
- 立案した計画に対して個別にアドバイスを与える

#### 宿題: 共通の宿題・個別的な宿題・問題解決的な宿題等

- 弱点・陥没点の単元の過去に行ったテスト等の活用
- 量・質・難易度等個人に応じた宿題
- 思考力・判断力・表現力等を高める活用育成シート等の活用

#### <学習> 自己採点の目的・方法の指導

- できなかった所を確認するための自己採点
- 不正解を再度自主学習で学習し、できなかった所をできるようにするための自主学習であることの指導
- 提出のための作業的な学習ではなく、実力をつける自分のための学習であることを指導することが大切

#### <確認> 春休み明けの確認テストの実施

- 宿題に対するの評価・指導の確実な実施

#### <修正> どこまでできて、どこからがわからないのか、子ども自身と教師が共有することがポイント

- 確認テストの振り返りの場の設定

### 互見授業を日常的に行うためには？

#### 課題: 時間と場の確保

- 管理職が授業を参観するときに設定
- 参観日を、週報・時間割等に明記
- ポイントを焦点化し、参観時間の短縮

#### 課題: 意識改革

- 「参観してもらってよかった」と授業者が思えるように、感想等を伝えること
- 授業者側から、「ここを見て」と明確にした「互見授業カード」等の作成と活用

**まずは「やってみよう」という雰囲気づくり**

これらの内容を参考にし、学校の実態に応じたより効果的な取組を実践してほしいと思います。

## 「地域を活かし、地域に尽くそう！」

### ふるさと教育」事業

～検沢小でのだんごさし～

今年度は、域内の小中学校17校から21事業の希望があり、各学校で工夫を凝らした取組が実践されました。今回は、1月10日(木)に検沢小学校で行われた1、2学年の「だんごさし」体験を紹介します。

はじめに児童の祖母である6名の講師の方々に教えていただきながら、だんごを作りました。白、ピンク、黄色、緑のカラフルなだんごができあがりしました。次に、実際にだんごを「みずき」にさしました。さしながらも次々に落ちてくるだんごを相手に、児童たちは悪戦苦闘していました。



最後に、児童昇降口に飾り付けをし、記念写真をとり終了しました。児童の輝く笑顔が印象的な1枚になりました。

いよいよお楽しみの試食タイムです。試食用に残しておいた白いだんごをみんなで仲良くおいしくいただきました。

楽しい時間を過ごすことができた児童は、満足気な表情をしていました。

次年度も、南会津の児童生徒が郷土のよさやすばらしさに気づく本事業の活用を、ぜひよろしくお願いいたします。